



現在形

ポイント	いつも変わらないこと。「未来」を表すことも可能。
例文	<i>He goes to school.</i> (彼は学校に行きます)
TOEIC	重要度は2。現在形を問う問題は少ない。出ても「三単現のsが付く」という中学レベルの問題。ただ、英文にはよく出てくるし、現在進行形との違いを明確にする。

進行形

ポイント	～しているところ（途中）。「まさに今」。
例文	<i>I am going to school.</i> (私は学校に行っている（ところ）)
TOEIC	重要度は3。現在進行形を問う問題は少ない。ただ、英文には頻出。Part1では、put on「着る（動作）」と wear「着ている（状態）」の現在進行形の違いが頻出。

進行形にできない動詞

ポイント	途中（～しているところ）と合わない→進行形不可。
例文	<i>He resembles his father.</i> (彼は父親に似ている)
TOEIC	重要度は2。進行形にできない動詞はTOEICではほぼ出題されない。とはいえ、上記のように簡単であるので知っておいても良い知識。

現在進行形で未来を表せる

ポイント	現在進行形で「未来」を表せる。
例文	<i>I am visiting Tokyo tomorrow.</i> (私は明日、東京を訪れる予定です)
TOEIC	重要度は5。これはそれぞれのPartで頻出します。もちろん「まさに今」ってことを表すときもありますが、同じくらいの頻度で「未来」を表す。

未来進行形

ポイント	〈will+be+…ing〉→「未来において～しているところ」
例文	<i>I will be sending the product to the customer tomorrow.</i> (明日お客様に商品を発送しているところです)
TOEIC	重要度は5。受験英語だと重要度はかなり低いですが、TOEICだと超頻出。未来進行形で「確実に行われますよ」と保証するので、丁寧な表現と言えます。

時・条件を表す副詞節の中では…

ポイント	時・条件を表す副詞節の中では未来のことも現在（完了）形。
例文	<i>I'll tell him the truth if he comes tomorrow.</i> (明日彼が来たら、私は彼に真実を話します)
TOEIC	重要度は4。英文で頻出するし、Part5の問題で問われることもあります。



現在完了形

ポイント	現在完了形＝過去＋現在（※現在が中心）
例文	<i>I have just done my homework.</i> (私はちょうど宿題を終えたところです)
TOEIC	重要度は5。現在完了形を問う問題は少ないが、各パートで頻出する。その際に、過去形との違いを明確にしておく必要がある。

現在完了形と共に使えない語句

ポイント	現在に触れない語句→現在完了と共に使えない。
例文	<i>I went to Tokyo twice when I was young.</i> (私は若いときに2回東京に行ったことがある)
TOEIC	重要度は1。受験英語だと非常に重要だけど、TOEICだとPart5を含めてこの知識が問われることはない。ただ、現在完了形のイメージをしっかりとつかんでいれば簡単。

過去完了形

ポイント	過去の過去、すなわち、大過去であれば過去完了形。
例文	<i>I had lived in Tokyo for three years when he was born.</i> (彼が生まれた時には私は3年間東京に住んでいた)
TOEIC	重要度は2。受験英語だとかなり重要なポイントだが、TOEICでは問題で問われることはほぼない。さらに、英文中でも出てくることも少ない。

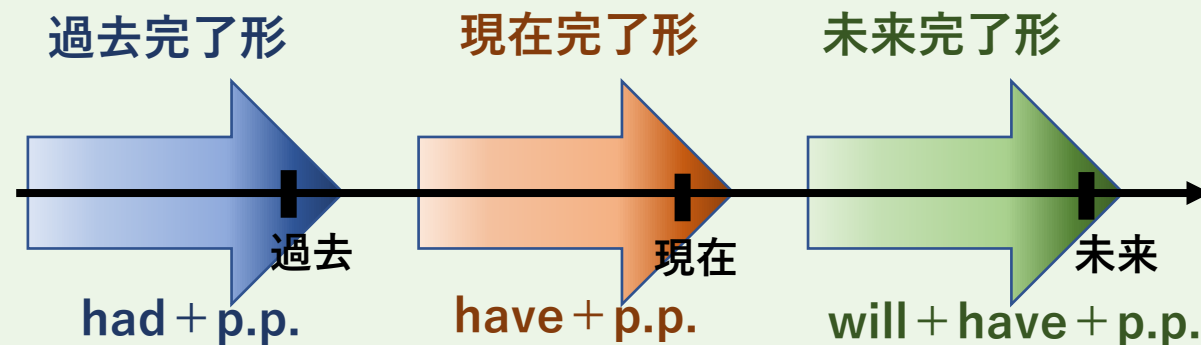
未来完了形

ポイント	現在完了形のイメージを未来に平行移動するだけ。
例文	<i>I will have lived in Tokyo for three years next year.</i> (私は来年で東京に3年間住んだことになる)
TOEIC	重要度は2。未来完了形の深いところを問う問題はない。また、過去完了形よりも英文にも出てこない。

完了進行形

ポイント	「継続」は完了進行形（have＋been＋～ing）を使う。
例文	<i>She has been waiting for three hours.</i> (彼女は3時間ずっと待っている)
TOEIC	重要度は4。Part5.6で問われるし、英文中にも出てくる。現在完了進行形（have＋been＋～ing）が圧倒的に多い。

参考図解（完了時制のイメージ）





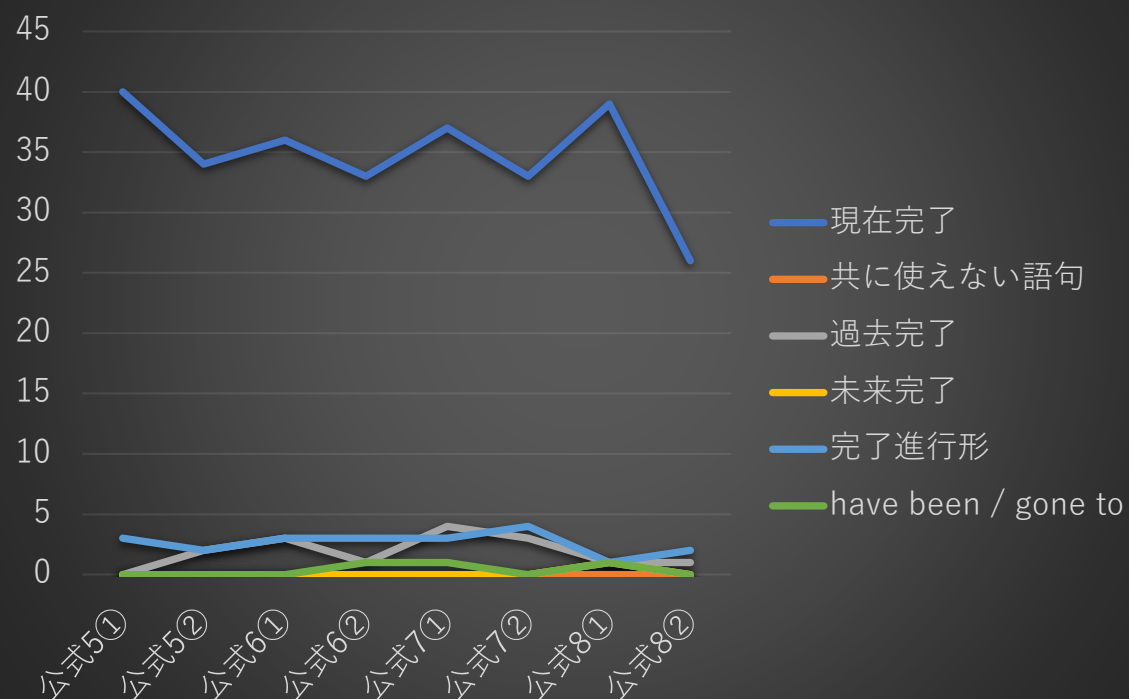
1. 現在形を問う問題は少ない。出ても「三単現のsが付く」という中学レベルの問題。ただ、英文にはよく出てくるし、現在進行形との違いを明確にする。
2. 現在進行形を問う問題は少ない。ただ、英文には頻出。Part1では、put on「着る（動作）」とwear「着ている（状態）」の現在進行形の違いが頻出。
3. 進行形にできない動詞はTOEICではほぼ出題されない。とはいえ、簡単であるので知っておいても良い知識。
4. 現在進行形で未来を表せる話はそれぞれのPartで頻出します。もちろん「まさに今」ってことを表すときもありますが、同じくらいの頻度で「未来」を表す。
5. 未来進行形は受験英語だと重要度はかなり低いですが、TOEICだと超頻出。未来進行形で「確実に行われますよ」と保証するので、丁寧な表現と言えます。
6. 「時・条件を表す副詞節の中では未来のことも現在（完了）形」は英文で頻出するし、Part5の問題で問われることもあります。



・公式問題集の頻度

	公式5①	公式5②	公式6①	公式6②	公式7①	公式7②	公式8①	公式8②
現在完了	40	34	36	33	37	33	39	26
共に使えない語句	0	0	0	0	0	0	0	0
過去完了	0	2	3	1	4	3	1	1
未来完了	0	0	0	0	0	0	1	0
完了進行形	3	2	3	3	3	4	1	2
have been / gone to	0	0	0	1	1	0	1	0

TOEIC公式問題集頻度



・解説

1. 現在完了形が圧倒的に頻出する。とはいえ、抑えるべきポイントは過去形との違い。すなわち、現在完了形は「過去＋現在」であり、あくまで現在中心というポイントを押さえておけばよい。

2. 先に述べた通り現在完了形と共に使えない語句についてはPart5.6で問われることもない。また、Part5で現在完了形が解答になることはあるが、それは時制の問題と思わせて、ただの受動態の問題であることが多い。

3. 過去完了形は毎回少しは出てくるが、ただ、過去の過去（大過去）ってことを知っていれば問題なし。未来完了形についてはほぼ出ない。

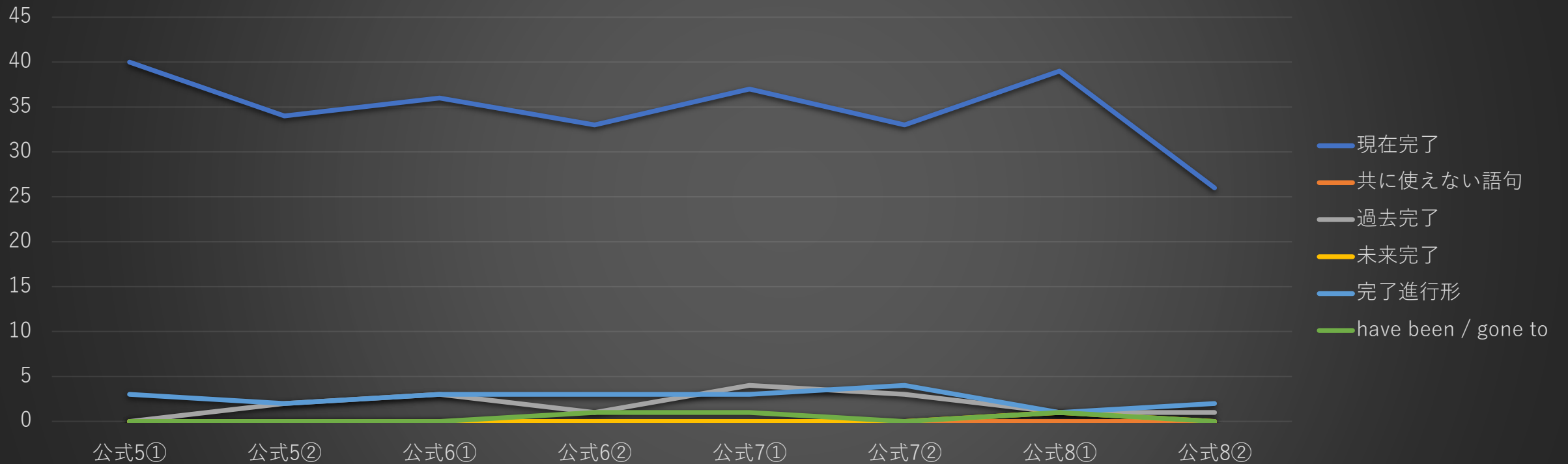
4. 完了進行形はそれなりに頻出するし、進行形のイメージと「継続」というのは、少し乖離しているので、しっかりと学習して負う必要がある。

5. have been to と have gone toの違いは受験英語だと定番だけど、TOEICでは問われない。ただし、have been to「～に行ったことがある」は知らないと思ってしまう必要があるので、しっかり自分のものにしておく。



	公式5①	公式5②	公式6①	公式6②	公式7①	公式7②	公式8①	公式8②
現在完了	40	34	36	33	37	33	39	26
共に使えない語句	0	0	0	0	0	0	0	0
過去完了	0	2	3	1	4	3	1	1
未来完了	0	0	0	0	0	0	1	0
完了進行形	3	2	3	3	3	4	1	2
have been / gone to	0	0	0	1	1	0	1	0

TOEIC公式問題集頻度





1. 現在完了形が圧倒的に頻出する。とはいえ、抑えるべきポイントは過去形との違い。すなわち、現在完了形は「過去＋現在」であり、あくまで現在中心というポイントを押さえておけばよい。
2. 先に述べた通り現在完了形と共に使えない語句についてはPart5.6で問われることもない。また、Part5で現在完了形が解答になることはあるが、それは時制の問題と思わせて、ただの受動態の問題であることが多い。
3. 過去完了形は毎回少しは出てくるが、ただ、過去の過去（大過去）ってことを知っていれば問題なし。未来完了形についてはほぼ出ない。
4. 完了進行形はそれなりに頻出するし、進行形のイメージと「継続」というのは、少し乖離しているので、しっかりと学習して負う必要がある。
5. have been to と have gone toの違いは受験英語だと定番だけど、TOEICでは問われない。ただし、have been to「～に行ったことがある」は知らないと誤読する必要があるので、しっかり自分のものにしておく。



1. 受動態自体はそれぞれのPartで頻出します。基本的に受動態自体は中学レベルの話であり、be動詞＋p.p.を見て受動態に気づき、訳せば問題ありません。ただし、無理して日本語も受動態で訳す必要はなく、これについては「英語で受動態が使われる理由」を理解しておくことでスムーズに訳せる。
2. 受動態の問題解法は受動態に限らず、準動詞のところで扱う過去形と過去分詞の判別で必須の知識。また、Part5.6でもこの知識は大活躍するので、しっかりとマスターしておきたい。
3. 受動態を見たら能動態を意識するというのも、表を見たらわかる通り頻出。もはや、be supposed/asked/required/scheduled to ..など、ほぼ熟語として認識している人も多い。とはいえ、それ以外の動詞が出たときに応用が利くように、この考え方は常に持つておく必要がある。
4. 受動態の時制はすべてのPartで頻出する。進行形、完了形、助動詞のすべてが頻出する。
5. be動詞以外の受動態は決して頻出はしないが、ぜひ、おさえておきたい。よく出る、get, become, remain＋過去分詞を見たときに受動態と気づけることが大切。
6. 意外にも受動態は、delay・locate・worryの3つしか出ないといってもよい。
7. 「by以外の受動態」や「原形不定詞を受動態にしたら」や「be made from/into/of」など受験英語で定番のポイントはTOEICではほとんど出てこない。



受動態の定義

ポイント	受動態：「目的語を主語に移動」
例文	<i>Tom broke the window.</i> → <i>The window was broken by Tom.</i>
TOEIC	重要度は4。この定義から次に紹介していく3つのルールが導き出されるので大切。ただし、この知識自体を問う問題はない。

他動詞なのに目的語ない→受動態

ポイント	他動詞なのに目的語ない→受動態。
例文	<i>The station was reached after four minutes' walk.</i> (4分歩くと駅に到着した)
TOEIC	重要度は5。Part5,6で超頻出。時制の問題と思わせ、ただの受動態の問題ということはよくあります。また、受動態に限らず、過去分詞のところでも使う知識。

自動詞は受動態にできない

ポイント	自動詞は受動態にできません。
例文	<i>When the capital city fell , the war ended.</i> (首都が崩壊したとき、戦争は終わりました)
TOEIC	重要度は4。さきの「他動詞なのに目的語がない→受動態」ほどには使わないが、非常に大切なルール。そして、これも、後にやる過去分詞のところで大活躍します。

受動態を見たら能動態をイメージ

ポイント	受動態を見たら能動態をイメージする。
例文	<i>The dog was found dead.</i> (その犬は死んでいるのがわかった)
TOEIC	重要度は5。Part5で直接的に使う問題は少ないですが、英文の中でかなりの頻度で頻出します。be asked toなど出てくるものはある程度決まっている。

受動態の時制

ポイント	受動態の時制は足し算するだけ。
例文	<i>The cake is being cut by him now.</i> (そのケーキは、今彼によって切られています)
TOEIC	重要度は5。part5.6でも頻出するし、英文中にも頻出するので非常に大切です。進行形、完了形、助動詞のすべてが頻出するのでしっかりとおさえおく。

be動詞以外の受動態

ポイント	受動態の本来の形は「自動詞+p.p.」です。
例文	<i>The door remained opened.</i> (そのドアは開けられていた)
TOEIC	重要度は3。be動詞以外の受動態は決して頻出はしないが、ぜひ、おさえおきたい。get, remain + 過去分詞を見たときに受動態と気づけることが大切。



意外にも受動態

ポイント	日本語では能動だけど、英語では受動態という表現。
例文	<i>The meeting may be delayed.</i> (会議は遅れるかもしれない)
TOEIC	重要度は2。意外にも受動態は、delay・locate・worryの3つしか出ないといってもよい。



助動詞の意味は2つある

ポイント	shouldは「すべき」のほかに「するはずだ」も。
例文	<i>He should arrive by seven.</i> (彼は7時までには到着するはずだ)
TOEIC	重要度は2。現在形を問う問題は少ない。出ても「三単現のsが付く」という中学レベルの問題。ただ、英文にはよく出てくるし、現在進行形との違いを明確にする。

進行形

ポイント	～しているところ（途中）。「まさに今」。
例文	<i>I am going to school.</i> (私は学校に行っている（ところ）)
TOEIC	重要度は3。現在進行形を問う問題は少ない。ただ、英文には頻出。Part1では、put on「着る（動作）」と wear「着ている（状態）」の現在進行形の違いが頻出。

進行形にできない動詞

ポイント	途中（～しているところ）と合わない→進行形不可。
例文	<i>He resembles his father.</i> (彼は父親に似ている)
TOEIC	重要度は2。進行形にできない動詞はTOEICではほぼ出題されない。とはいえ、上記のように簡単であるので知っておいても良い知識。

現在進行形で未来を表せる

ポイント	現在進行形で「未来」を表せる。
例文	<i>I am visiting Tokyo tomorrow.</i> (私は明日、東京を訪れる予定です)
TOEIC	重要度は5。これはそれぞれのPartで頻出します。もちろん「まさに今」ってことを表すときもありますが、同じくらいの頻度で「未来」を表す。

未来進行形

ポイント	〈will+be+…ing〉→「未来において～しているところ」
例文	<i>I will be sending the product to the customer tomorrow.</i> (明日お客様に商品を発送しているところです)
TOEIC	重要度は5。受験英語だと重要度はかなり低いですが、TOEICだと超頻出。未来進行形で「確実に行われますよ」と保証するので、丁寧な表現と言えます。

時・条件を表す副詞節の中では…

ポイント	時・条件を表す副詞節の中では未来のことも現在（完了）形。
例文	<i>I'll tell him the truth if he comes tomorrow.</i> (明日彼が来たら、私は彼に真実を話します)
TOEIC	重要度は4。英文で頻出するし、Part5の問題で問われることもあります。



1. 「助動詞の後ろには動詞の原形」という当たり前のルールが、Part5.6で問われる。

2. 助動詞（will , may , can , must ,should）はそれぞれ2つの意味がよく出てくる。ただし、canは「できる」って意味で出てくることが多く、「ありうる」って意味で出てくることはほとんどない。また、mustはそもそもあまり出てこないが、「～しなければいけない」の意味でたまに出てくるイメージで、「～にちがいない」はほぼ出ない。また、shouldがかなり頻出するのが印象的。

3. 助動詞の代用表現（be going to , be able to , have to , need to , ought to）はよく出てくる。need toは通常はここで解説されることが少ないけど、あまりにも頻出なのでここでも紹介しておく。shouldは頻出するけど、その代用表現のought toはほぼ出てこない。

4. 祈願のmayは出てこない。とはいえ、英語の知識が丸暗記ではないことを知ってもらうためにも、ぜひ記事は読んでほしい。

5. must not（～してはいけない）はほぼ出てこないが、中学知識でもあるし、知らないと全く違う意味になってしまうのでおさえておく。一方で、don't have to（～する必要はない）はちらほらと出てくるので必ずおさえておく。

6. wouldとused toの話は受験英語だと定番だけど、TOEICだと、used toがたまに出るくらいで、過去の習慣を表すwouldはほぼ出ない。なので、use toの「以前は～だった」という意味はしっかりと覚えておく。

7. 助動詞＋have＋p.p.は受験英語だと最重要と言ってもいいけど、TOEICだと出てこない。たまに、should＋have＋p.p.が出てくるくらい。とはいえ、記事で紹介している6つは覚えておきたい。

8. 仮定法現在も受験英語だと定番問題であるが、TOEICでは問われることはほぼない。ただし。英文中にはちらほら出てくるので、その際に、なぜ動詞の原形？ってことは理解しておきたい。

9. wouldとcouldは頻出する。その場合の意味は、98%以上は「控えめ・丁寧」の用法になる（Would you～?などの慣用表現を含む）。

10. 助動詞の慣用表現は出るものが偏っている。具体的には、would like to , would you like to , would like , Would you～? , Can I～? , Can you～? , Could you～?ぐらい。受験英語で定番のhad betterなどはほぼ出てこない。